

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年10月3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874100597		
法人名	有限会社 在宅介護サービスきぼう		
事業所名	グループホーム みらく	ユニット名	ユニットA
所在地	〒308-0112 茨城県筑西市藤ヶ谷2365		
自己評価作成日	平成23年2月14日	評価結果 市町村受理日	平成23年9月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年5月12日	評価確定日	平成23年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

『地域や家族とのかかわりを大切にする。』をモットーに、日々のケアに取り組んでいる。また、恵まれた環境や、施設の多様性を活かして、入居者・家族・地域の貢献に役立てることがないかと日々奮闘中である。管理者・介護職員は当グループホームを入居者の『終の住み家』・『最後の家族』としての自覚を持ち、『その人らしさとは何か?』を常に考えながら、これからもよりよいケアに取り組んでいく考えである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

大手介護サービス事業所で訪問介護員として働いてきた代表者が、その事業所の閉鎖によりサービスを受けられなくなった利用者に対してなんとかしたいという想いで開設した事業所である。 広々とした敷地や明るさにあふれた建物など恵まれた環境の中で、行政と連携して処遇困難な利用者の支援をしている。 利用後に状態が改善している利用者もあり、グループホームならではのきめ細かなサービスを提供している。 事業所内で犬や猫などのペットを飼っており、利用者はペットに接することで癒されている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を行いながら、利用者が「ほっ」とできる場所を目指すという理念を掲げ、事業所内に掲示するなどして職員間の理念の共有に努めている。	「地域の中で生きるひとりの人間として、その人らしく、イキイキと生活できるようできる限りのお手伝いをしていきます」を理念の一つに掲げ、事業所内に掲示して職員で共有を図っている。 職員は理念を念頭におき、「自分が利用者の立場だったらどうか」を常に問いかけながら支援をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域での清掃や、ごみ拾い・夏祭りなどの地域行事に積極的に参加している。また、地元の小学生の職場見学の場として毎年ホームを開放し、交流を図っている。散歩や外出時には積極的に施設の紹介をしている。	自治会に加入するとともに、地域の清掃活動への参加や祭り神輿の休憩場の提供など、積極的に地域と交流を図っている。 地域の小学生が社会科見学の一環として事業所に来訪し利用者と交流している。 近くの交番やコンビニエンスストアに、利用者が外出した際の支援をお願いしている。 代表者が地域で開催された認知症講座の講師を務めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会やボランティア訪問時は近隣住民に参加を呼び掛けて、気軽に立ち寄ってもらい、理解を深めてもらうよう努めている。また施設長が専門学校の講師を依頼されたり、地域の集会に講話に招かれたりして地域貢献に努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を定期開催している。外部評価の1回/2年に向けて継続したい。	運営推進会議は市職員や家族等の代表、地域の代表などで2ヶ月に1回開催している。 会議では外部評価結果を報告するとともに、委員から芸能ボランティアなどの情報を得て、事業所でボランティアをしてもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務手続き時だけでなく、定期的に市役所を訪れ、ホームの実情の報告や介護保険制度の疑問点などを担当課職員に聞くなど運営上の相談をしている。	普段から市担当者に会う機会を設けたり、処遇困難な利用者について市担当者と連携しながら対応をしている。市担当者と協力して、「地域密着型事業所協議会」を立ち上げ研修等を実施している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ポスターを貼ったり、ミーティングで話すなど身体拘束をしないケアの理解に努めている。やむを得ず身体拘束をする場合には、マニュアルを用い、家族に同意を得た後、市役所に報告している。（過去1事例あり）	身体拘束廃止委員会を設置したり、マニュアルや拘束排除宣言を作成している。胃ろうカテーテルの抜去防止のためミトンを使用するなど、やむを得ず身体拘束をする場合には家族等の同意を得るとともに経過を記録している。身体拘束廃止に向けた定期的な研修を実施するまでには至っていない。	定期的な研修により、全職員で身体拘束廃止に向けた意識の共有を図ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ポスターを貼ったり、ミーティングで話すなど虐待をしないケアの理解に努めている。（マニュアルあり）		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	社内研修にて対応している。（マニュアルあり。該当事例なし。）		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の重要事項の説明などには十分時間を取り、急いで決めてもらうのではなく、十分に納得・理解してもらった上で契約や解約を行っている。（体験あり）		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が日常生活上で思うことを遠慮なく言ってもらうように、職員が問いかけを行っている。家族などの苦情は運営者が管理し、必要に応じて職員に指導を行っている。（管理者または施設長に直接連絡する仕組みになっている。）	利用者毎に話し易い職員を担当とすることにより、意見や要望が出易くなるよう配慮をしている。 利用者や家族等から出た意見や相談は、苦情報告書に記録することにより対応漏れがないように努めている。 利用者から出た「芝居や花見に出かけたい」という意見を受けて希望にそった外出を支援している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っているミーティングでた意見については、必要に応じ施設運営に反映させている。	管理者は毎日のミーティングで運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けるとともに、資格取得や勤務体制に関する意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の大多数が日々の職場・家庭生活に追われ、「自己啓発などとても無理」と音を上げているが、希望者には介護福祉士や介護支援専門員試験などのテキストを購入したり、勤務シフトを配慮したりと、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、管理者や計画作成者などが主に参加しているが、その結果を介護職員のケアにうまく生かせていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	筑西市のグループホーム協議会に入会して、定期開催の会合で同業他事業所との交流、スキルアップを図っている。（会長が突然退職したため、グループホーム協議会の活動は休止中である。）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症が進んだ利用者に対しても、可能な限り話し合う機会を設けて対応に努めている。また、契約前の見学時に入所者と一緒にお茶を飲んだり、歌を歌ったりなど交流してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階の施設見学や電話問い合わせなど、気軽に相談できるよう配慮し、できるだけ家族と話し合える機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の状況など必要に応じて、入所ではなく、在宅介護サービスの利用や他の施設をすすめるなどをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者が畑で野菜作りをしたり、切干大根を一緒に作ったり、芝生の草取りをしたり、歌を唄ったりなど同じ時間を共有できるよう配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じ、年末年始や法事などの時に、家族に外出や外泊の依頼をするなど、一方的な支援にならないよう配慮している。また、家族と利用者との関係が疎遠にならないよう、利用料の支払いは原則、施設に来てもらうようにしている。あわせて、定期開催の家族会（花見、納涼祭、クリスマス会）は家族親類最低一人は出席してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が住んでいた近所の行事に出かけたり、本人の昔話によく出てくる場所に出かけたりと、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	利用者が馴染みにしている地域の神社に毎月出かけている。 職員は利用者との日常の会話から馴染みにしていた場所や行事を把握し、駄菓子屋やだるま市、墓参りなどへの外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に歌をうたったり、回想法をしたり、本人のペースも踏まえながら、できるだけ入居者同士が関わり合えるような配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者にも家族会等の案内を出したり、気軽に訪問を呼びかけたりと、契約終了後も付き合いを大切にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	当グループホームは認知症が進んだ利用者が多いが、まめに声かけなどをして、できるだけ利用者本位の介護ができるように努めている。	初回のアセスメントで利用者や家族等の思いや意向を把握している。職員は利用者のしぐさや表情から思いや意向の把握に努めているが、記録に残したり全職員で共有するまでには至っていない。	日々の係わりの中で把握した利用者の思いや意向を全職員で共有できるような記録の工夫が望まれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族と絶縁状態で生活保護の利用者などの把握は困難であるが、本人や家族ができるだけ話しやすい対応をし、生活歴の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員に日常的に利用者の経過観察を行うようにし、申し送りをするよう指導している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的にケアマネージャの管理者が作成し、介護職員・家族などの関係者に意見を求めて介護計画を確定している。全ての職員が介護計画の内容を踏まえ、日々のケアにあたっているとは言えないところがある。	介護支援専門員が作成した介護計画案に、職員や協力医療機関の医師の意見を取り入れて介護計画を作成している。利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や個人別の介護記録にあまり介護職員の気づき等が記載されていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の代行で介護保険の手続きをしたり、通院したり、身体状況に応じて他の施設や介護サービスをすすめるなど柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フラダンスやお囃子、芝居などの地域ボランティア等を積極的に利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望すれば、入所前のかかりつけ医で受診してもらっている。必要に応じて提携医院の往診対応も行っている。定期的に歯科医師による口腔ケアも行ってもらっている。24時間往診対応してくれる医院と連携している。	利用者や家族等の希望によりかかりつけ医への受診も可能であるが、現時点では全ての利用者が協力医療機関への受診となっており、職員は協力医療機関の医師による訪問診療時に情報提供などの支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームの職員に看護師資格を有している者がおり、医療処置などを日常的に支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを持参し情報の提供に努めている。また、手術後にはできるだけ早期に退院させてもらえるようこまめに病院に赴き、術後処置が必要な場合は提携医に往診対応してもらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状が重度化の兆しが見えはじめたら、家族や医師と終末期のあり方について相談している。当グループホームは提携医の往診対応で看取りを行っています。（過去6事例、本年度該当なし。）	常勤看護師を配置するとともに、重度化や終末期に向けた方針を作成している。 看取り介護開始時に医師や看護師から家族等に状況を説明し、書面で同意を得ているが、利用者の状態の変化に応じた段階的な同意を得るまでには至っていない。	看取りに向けて利用者や家族等と方針の食い違いを防ぐためにも段階毎に話し合い意思確認をしたり同意を得るほか、記録簿を整備することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が日常的に対応し、近所に住んでいるため、管理者や施設長、社長などを除いては、全ての職員が実践力を身に付けていると言い難い。 （昨年度、消防署指導の救急救命講習を施設で受講している。）		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者講習や消防計画は済んでいる。自主避難訓練や避難場所等は決めてはいるが、関係役所・地域との連携にはまだ至っていない。保存食・水は確保済み。	消防署の協力を得て夜間想定を含めた避難訓練を年2回実施しているが、実施記録を作成したり避難訓練で明らかになった課題を記録するまでには至っていない。 近隣住民が参加する消火訓練を実施するとともに、非常時の協力体制を呼びかけている。	避難訓練の実施記録を作成するとともに、避難訓練で明らかになった課題の改善に向けて取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を第一に考え、ミーティング等で意識向上に努めている。(マニュアルあり。)	管理者は利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保に関して不適切な対応があった場合は、その都度現場で職員に細やかに指導しているが、徹底するまでには至っていない。	理念を踏まえ、利用者の人格を尊重する対応を全職員で話し合うことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的に声かけをし、やるやらない、欲しい欲しくないなどの意思確認をできるだけ行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事をとりたくないという利用者には食事の時間をずらしたり、横になりたいという利用者には昼寝をしてもらったりとできるだけ本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外での理美容を希望する利用者には、職員が付き添い外出している。当施設でも美容師免許をもった職員がいるので、本人の希望をできるだけ反映させられるよう対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、入所者に野菜の皮むきなどは手伝ってもらい、テーブルふきやお茶をいれてもらったりと一緒に食事を楽しむように努めている。	利用者は職員と共にテーブル拭きなどの準備や食器の後片付けをしている。 職員の差し入れた旬の食材や自家菜園の収穫物などを食材に加え、変化に富んだ食事になるよう配慮をしている。 季節が感じられるよう、四季に合わせた行事食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日報に水分摂取量を記録したり、カロリー計算をして献立をたてるなど支援をしているが、保健所の管理栄養士などから意見を求めたりはしていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科医の指導を受けるなど口腔ケアに努めている。（基本朝夕）		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的に声かけをし、できるだけ尿・便失禁がないように配慮している。また、排便に関しては状況を把握し、必要に応じて服薬、看護師による浣腸・摘便を行っている。	職員は排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計ってトイレ誘導をしたり、そわそわするなどのサインを把握して声かけし、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と、水分摂取量の把握など便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する・しないは本人に確認をとるが、入浴日・時間等は便失禁等の場合を除き基本的に決められている。今後も対応することは困難と考えられる。	夏季は週3回、冬季は週2回の入浴を基本としているが、草刈りで汗をかいた場合など状況に応じて随時入浴ができるように支援をしている。 露天風呂があり、入浴が楽しみなものになるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて、昼寝してもらったり横になってもらったりしている。また、散歩などの適度な運動による安眠を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師である職員からの説明や、薬剤の説明書をファイリングするなどして理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞取りや、野菜作り、食事の当番など役割や楽しみごとの場面づくりを支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるような支援は困難である。散歩や買い物の付き添い、外食などは定期的に行っている。また、普段行けないような、利用者が昔よく行っていた縁日や神社の花見、温泉旅行などを家族に手伝ってもらい支援している。	利用者は庭の広いデッキや芝生に自由に出入ができるようになっている。事業所の周辺への散歩や買い物のほか、芝居や温泉旅行など利用者の趣味に合わせた外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が進んだ利用者が紙幣を破いたり、硬貨を食べてしまったりするため基本的に利用者に金銭管理を行わせていない。しかし、外出時などにはお金を渡し、支払いをしてもらうなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者によっては手紙を書いて家族の面会時に渡したり、定期的に電話をかけたりの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を置くなどして、親しみやすい環境を心がけている。また、壁に掲示物を貼ったり、手芸品を置くなどの雰囲気づくりを行っている。	共用空間は高い天井に天窗を設け、明るくなるように設計されている。リビングの一角に和室やソファを配置するほか、外デッキが設置されていたり庭にテーブルや椅子を配置し、利用者がそれぞれに自分の居場所を見つけられるように配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話スペースや廊下の椅子など、利用者が思い思いに過ごせるような工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じて馴染みの小物を持ち込んでもいいと伝えてはいるが、持ち込まれるケースは少ない。	利用者は居室に馴染みの籐イスや衣装ケース、ベッド、小物入れ、遺影、仏壇などを持ち込んでおり、職員は利用者一人ひとりの生活スタイルに合った居室となるように支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に応じ、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみるく

作成日 平成23年9月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束廃止に向けた定期的な研修が行われていない。	職員間での身体拘束廃止の意識の共有	身体拘束廃止に向けた研修を行い、職員間での意識の共有を図る	H23/11研修実施予定(以降少なくとも6ヶ月に1回の研修を予定)
2	23	日々のかかわりの中で、各職員が感じた利用者の思いや意向を職員間で共有できていない。	利用者の思いや意向の共有	職員が感じた利用者の思いや意向を日報に記録し、定例ミーティング時に職員間での情報共有を図る。	H23/10定例ミーティングから実施予定
3	33	終末期の看取りに対する体制等が整備されていない。	①必要書類の作成 ②医師など関係者への説明、同意など	①必要書類の作成 ②医師や家族などに終末期の看取りについて説明し、同意を得ておく。	①H23/10末 ②H23/11末
4	35	避難訓練の実施記録がない。また、問題点の改善等の取り組みがなされていない。	①実施記録の作成 ②問題点の改善への取り組み	①必要書類の作成 ②問題があった場合はミーティングで改善を検討し、改善に向けた取り組みを実施する。	①H23/10末 ②H24/1避難訓練時より実施予定
5	36	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーに対する配慮が十分でない。	利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーへの配慮	全職員が、利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーを配慮し、日々の業務に活かせるようにミーティング、研修等で意識の共有を図る。	H23/10ミーティングより実施予定
6					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。